



光受寺通信

R.4年1月1日 発行
発行元 光受寺
https://koujyuji.com/

境内では固かった梅の蕾がほころび始めています。今年は何本かの主枝が枯れ、樹形もすっかり様変わりしてしまいました。飛龍梅はやや寂しい枝ぶりではありますが、何とか花芽をつけて春を待ち受けているようです。

さて今年はどうなるのかと、気がかりな一年の始まりになっていますが、私も今年で後期高齢者となります。一つひとつできなくなったことに歯がゆさを感じながらも何とか生かされているようです。

『明日ありと思う心のあだ桜 夜半(よわ)に嵐の吹かぬものかは』この歌は親鸞聖人が9歳でお得度を受けられた折に詠まれた歌とされています。「今しかない」という並々ならぬ決意が表出されているように思われます。わずか9歳でのこの境地には至られた背景には、様々な出来事があったのですが、それぞれが深いご縁となって世の無常を、身をもって感じ取られていたのではないのでしょうか。

私たちの人生においても「今しかない」という思いで生きることができるならば、年は何歳であったとしても条件は同じ、生き生きと生きられるはずなのです。さあその一日が今日も始まります。

年若いでも 楽しみは尽きぬ

総代 K・Y

明けましておめでとうございます。
昨年はコロナ、殺人事件、交通事故など多くの暗い出来事がありました。大谷選手の活躍など明るい話題もありました。

数年前から私は、新聞の自分の干支の運勢欄を、永年使い慣れた万年筆で、ノートに書き写すことを日課にしています。

わずか一行の短い文章を書き写すだけで、さほど負担にならず、字を書くことはボケ防止になるかと思いい、続けております。

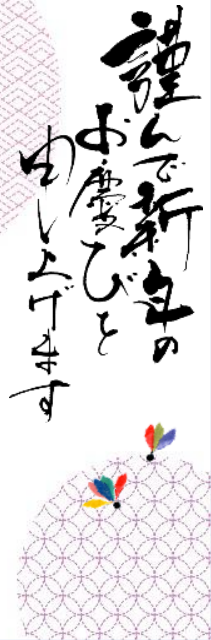
その中には、人生にいろいろ参考になる言葉があり、最近では次の言葉が、印象に残っています。

「枝垂れた老木に花が咲く 老いても楽しみは尽きぬ」



そんな気持ちで、今年も暮らしていきたいものです。

今年こそ、災害や感染もない穏やかな一年になりますように願っております。



ただただ真実(まこと)の教えに
導かれ、今日を生きます。

今年で新型コロナウイルスが流行して3年目に入ります。ウィズコロナといわれ、私たちの生活スタイルも必然的に変容してまいりました。さまざまに自粛が求められる中、日常の有り難さがしみじみと感じられたことでもありました。改めて日常の当たり前を見つめ直し、感謝の一年が始まりました。

つし 連絡

― 新年にはお寺へお参りを―

○学習会・金曜喫茶はお休みします。(2)月より再開します

○年回予約はお早め(下)お寺への法要もお気軽「つし連絡」ください

令和三年

満堂の報恩講となりました。



約一時間半のお話に聞き入るご門徒の皆さん方。

令和三年 十一月十一日(日)午前九時、お天気にも恵まれ、暖かかったこともあってか、とても多くの「門徒の方々に」参詣いただきました。初めてお参りいただいた若い方も何人かお見受けすることができました。「口ナ終息の心配が見えたとはいえず、まことにありがたい報恩講となりました。」

毎年不欠の報恩講としてお勤めをする「こと」の重さを「門徒の姿勢を通して強く感じられた報恩講でもありました。講師からも「とてもありがたい報恩講になりましたね」とのお言葉をいただいたほどでした。

昨年は様々な事件や災害が起こった年でした。そんな今年を振り返る中で「いよいよ仏法によらなければならぬ」と強く思われたことです。



今月の掲示板

「往生」

「往生」とは「往へきく生まれる」と、という本来の意味ですが、「往生した」、「立ち往生した」とも言われ、何故か困り果てたところで使われる「ワンダラシム」。

本来の意味と違った使われ方をされていますが、実は「こゝに」念仏往生「すること」の要があるのです。

それは今までの自分の思いや考えのすべてが根「こそ」揺るがらぬ「こゝに」念仏に気づかされた「こゝに」他ならないからです。

その「こゝ」の無条件降伏の一点で「往き生まれる」「縁となるのです。」



光受寺御遠忌法要



こころの散歩

10回目



新コーナー

十二回連載

樹林

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年立教開宗協賛二一マ
南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていく

問いつける歩みをともし

悪人正機とサンゲ

歎異抄第3章は、「悪人正機」という有名な章ですが、親鸞聖人の本意とは、微妙な開きがあるように思われます。教行信証の総序に登場するアジャセ(阿闍世)の父親殺害の罪について、親鸞聖人は長い間、真剣に問い詰められ、思いを重ねたと言われます。それは誓願の十八願にある『唯除五逆誹謗正法』を踏まえての事です。

アジャセは救われるか、阿弥陀の救済力は五逆の大罪を犯したアジャセに及ぶのか? 越前流罪以降重大な課題となりました。これが教行信証を著す動機にもなったようです。長い熟慮の末に、結論を得られました。アジャセは救われる。ただし二つの条件を満たすこととされました。第一には善智識にめぐりあい良き導きをつけること、第二には深刻なサンゲへ懺悔、五逆の大罪を見つめ、深くふかく反省し悔い改めること。これによって五逆の人も救われると結論づけられたのです。

悪人正機のうらには、善智識の導きと、深いサンゲが込められていたのです。こうして軽薄な「本願は」も「消滅する」となります。